

平成 26 年度 「大阪府中学生チャレンジテスト」における 阪南中学校の結果の分析について

大阪府による「大阪府中学生チャレンジテスト」について、平成 27 年 1 月 14 日（水）に、第 1 学年と第 2 学年を対象として、教科に関する調査と生徒アンケートを実施しました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に生徒の学力向上をめざしています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- ① 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 大阪府教育委員会が、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性を担保する方策（「評定の範囲」の作成）について検証する。
- ③ 大阪市教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のための PDCA サイクルを確立する。
- ④ 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- ⑤ 生徒一人一人が、自らの学習到達度を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2 調査の対象

- ・ 大阪府内の市町村立中学校、特別支援学校及び府立支援学校中等部の第 1 学年、第 2 学年
- ・ 阪南中学校では、第 1 学年 251 名、第 2 学年 280 名

3 調査内容

- ① 第 1 学年で、国語、数学及び英語
第 2 学年で、国語、社会、数学、理科及び英語
- ② 生徒アンケート

平成26年度「チャレンジテスト」検証シート

学校名 大阪市立阪南中学校

【第1学年】

生徒数(人) 251

平均得点(点)

| | 国語 | 数学 | 英語 |
|-----|------|------|------|
| 学校 | 67.8 | 63.6 | 75.8 |
| 大阪市 | 61.8 | 52.6 | 66.9 |
| 大阪府 | 63.2 | 53.7 | 69.3 |

平均無解答率(%)

| | 国語 | 数学 | 英語 |
|-----|-----|-----|-----|
| 学校 | 3.2 | 3.1 | 2.0 |
| 大阪市 | 5.8 | 6.0 | 5.1 |
| 大阪府 | 5.4 | 5.9 | 4.9 |

結果の概要

- 平均得点は、国語・数学・英語ともに、大阪府平均より4.6~6.5点上回っている。
- 平均無解答率は、3教科ともに、大阪府平均より2.2~2.9ポイント低くなっている。

成果と今後取り組むべき課題

- 各教科において、生徒が興味・関心を持ち、意欲的に学習に取り組めるような授業づくりに努めていることが、成果となっている。
- 今後、生徒がより興味・関心を持てるよう、ICT機器を活用した授業の実施に取り組む。

【第2学年】

生徒数(人) 280

平均得点(点)

| | 国語 | 社会C | 数学 | 理科A | 英語 |
|-----|------|------|------|------|------|
| 学校 | 71.1 | 67.5 | 60.9 | 52.5 | 67.0 |
| 大阪市 | 61.3 | 50.2 | 47.0 | 43.8 | 52.5 |
| 大阪府 | 62.9 | 51.9 | 49.4 | 45.4 | 55.0 |

平均無解答率(%)

| | 国語 | 社会C | 数学 | 理科A | 英語 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 学校 | 2.3 | 1.7 | 2.6 | 1.9 | 1.8 |
| 大阪市 | 6.2 | 7.7 | 8.3 | 5.3 | 4.0 |
| 大阪府 | 5.3 | 6.0 | 7.5 | 4.7 | 3.8 |

結果の概要

- 平均得点は、5教科ともに、大阪府平均より7.1~15.6点上回っている。
- 特に、社会・数学・英語においては、10点以上上回っている。
- 平均無解答率は、5教科ともに、大阪府平均より2.0~4.9ポイント低くなっている。

成果と今後取り組むべき課題

- 各教科において、生徒が興味・関心を持ち、意欲的に学習に取り組めるような授業づくりに努めていることが、成果となっている。
- 今後、生徒がより興味・関心を持てるよう、ICT機器を活用した授業の実施に取り組む。